

# 広域観光交流の推進

日本大学：国際関係学部 矢嶋ゼミナール

指導教員：矢嶋 敏朗

参加学生：赤松 優、松本 七海、水木 友音、浅野遥、柴崎友花、

藤田なつみ、松尾佳哉、柳澤海翔、秋澤遼、阿部百衣、

平山明果、山内麻鈴、野瀬陽加、朝倉万結、佐藤成、打桐悠登

## 1 要約

静岡県三島市は、伊豆/箱根/富士山などの日本でも有数の観光地に 1 時間程度でアクセスできることもあり、全国から年間 677 万人という多数の観光客が訪問する。一方で宿泊客数は 33 万人で宿泊率 4.8%<sup>\*1</sup>と、”通過観光地”（乗換地）となっている。三島市は、大自然や味覚などの観光素材が豊富で、東海道新幹線三島駅や（新）東名高速道路にも近い立地により首都圏や中京圏からのアクセスも良く、観光地として魅力的なロケーションである。

このたび、本学のある三島市を研究する私たちは「広域観光」を、本市全体を対象にして観光交流を生むことを「広域（広域観光）」と定義した。それを基に、産官学連携で三島市ツアーを企画。三島市観光協会と大手旅行会社阪急交通社のご協力の下、ツアーの販売を行った。

\*1：令和元年度静岡県観光交流の動向より（参考：隣自治体の泊率：熱海市→77.3%

伊豆の国市（伊豆長岡地区）34.1%）

## 2 研究の目的

静岡県三島市は、周辺地域に伊豆、箱根、熱海、箱根や富士山など有名観光地が存在しており、”通過観光地”（乗換地）となっている。本市内においてもその観光素材として注目されるのは三島スカイウォークや三嶋大社であり、市内全域には人の足が向かない。

矢嶋ゼミナールでは、①本市の”通過観光地”からの脱却と②主要観光地以外への人の流れを生み出すことを目指した。観光客も地域の方々も巻き込み、観光（＝広域観光）の創出を皆で行うという認識を高めることを目的とした。

## 3 研究内容

“広域観光”を実現するためには、三島市内の観光スポットや観光関係者（ステークホルダー）全部巻き込むことを意識した。特に、観光客に市内全体を周遊することを重視して、今までにない三島の魅力を盛り込んだ「富士山・うなぎ 三島の魅力ぎゅぎゅとツアー2日間」を企画した。企画に当たり以下のポイントで研究を行った。

### (1) 下見

三島市全体を“広域”と捉えることにより、これまで注目されていなかった「三島市の日常」が観光資源としての魅力を持つことを発見しました。これら当たり前のことをつなげることで、広域観光を構築した。



写真1：下見中の様子

### (2) インタビュー

地域の方々へのインタビューをしっかりとすることで、日常という当たり前のことが魅力ある資源という気づきを促した。これにより、私たちが広域観光を組織する一員であるという意識づけにも寄与した。

### (3) 産官学連携

三島市観光協会や阪急交通社様に産官学連携によるツアー実施をプレゼン、サポートの了解を得た。ツアー販売を通すことで、日常の当たり前が観光資源として活用できることを提案した。また、協力先となる地域の方々へツアーを受け入れていただくよう調整（交渉）を行った。

### (4) ツアー内容の決定

インタビュー内容を基に、三島市内の日常の当たり前が繋がったツアー内容を関係各所（三島市観光協会と阪急交通社様）にプレゼンテーションを行い、プロフェッショナルのアドバイスも得た。ツアー内容を決定する上で体験型コンテンツの重視を広域観光の創出のポイントとすることにした。

### (5) 広告作成

インタビュー内容を基に、三島市内の広域観光の魅力が消費者に伝わるよう、関係先の方々と協力して広告を作成した。さらに、私たち学生の三島市内の広域観光への熱意も広告に込めることで、広域観光への消費者の理解を求めた。



写真2：完成したパンフレット

### (6) 集客

広告やマスコミ掲載など広報活動により、今回の広域観光への関心（集客）を促した。

### (7) アポイントメントと最終チェック

受け入れ先との最終打合せを行い、改めて観光を組織する一員として互いに三島の方々が丸ごと三島ツアーへの志をひとつにした。

### (8) ツアー実施

2024年12月1日（日）～12月2日（月）の1泊2日の三島市ツアーを催行して、以下の成果を得ることができた。

## 4 研究の成果

地域ステークホルダーと地域住民の協力のもと、「富士山・うなぎ 三島の魅力ぎゅぎゅとツアー2日間」のツアー販売を行った。下表は実際に販売したツアーの行程表である。\*販売価格：34,900円（宿泊2名1室の場合）、44,900円（宿泊1名1室の場合）

12月1日（日）
上野駅～新宿駅～松韻（うなぎの昼食）～登録有形文化財「隆泉苑」にて三島の人気の和菓子兎月園の上生菓子作り体験～三嶋大社（正式参拝）～三島市中心街の散策～伊豆箱根鉄道体験乗車（三島広小路→三島）～富士山三島東急ホテル到着後、希望の夕食スポットをご紹介/ホテルロビーにて地酒や静岡茶を飲めるコーナーを設置
12月2日（月）
ホテル～富士山ビュースポット（三島市内からの富士山絶景ポイント「三島富岳三十六景」から選定）～箱根西麓三島野菜（ニンジン）収穫体験～みしまるかん（JAふじ伊豆直営のファーマーズマーケット）～日本大学国際関係学部三島駅北口校舎（富士山を一望し、時速250kmで走行する新幹線も眼下に望む学生食堂で昼食）～三島スカイウォーク～新宿駅

本研究では、募集に対してツアー客が5名と小規模で実施することとなった。集客において初めは2名と実施が危ぶまれたが、2次募集を掛けた結果、計5名の集客に成功した。広域観光のモデルとしての理解を関係者が示していただき、小規模ながら実施ができた。

実施した内容の成果を、①観光客、②地域の方々、③学生の3つの視点から述べる。

### ① 観光客

ツアー後の阪急交通社様実施の参加者からのアンケート結果によると、今回のツアーの満足度は100%と顧客の満足度は高かった。特に好評だったのは以下のコンテンツだ。

- ・ 兎月園の上生菓子作り体験
- ・ 伊豆箱根鉄道体験乗車
- ・ 箱根西麓三島野菜の収穫体験

これらの体験型コンテンツは、地域住民と共に日常的な観光資源に向き合うものである。これらをツアーに取り入れることで、従来とは異なる観光の形を生み出すことに成功し、本市の観光要素の幅を広げられた。その結果、従来、観光地として注目されておらず、訪れることのなかった地域にも足を踏み入れることとなり、広域に観光客を周らせる成果が得られた。また、観光客はそれに理解を示し広域へ訪れたいという意志も示された。



写真3：兎月園の上生菓子作り体験の様子



写真4：箱根西麓三島野菜の収穫体験の様子

## ② 地域の方々

今回、三島市全体を巻き込み、本市を丸ごと感じていただくツアーに対して、地域の観光施設と地域関連施設、地域の方々からの理解を得られた。これにより、三島市内全体を巻き込むことができ、丸ごと（広域）三島観光が実現できた。

## ③ 学生

地域の方々に協力を依頼する過程で、私たちの“広域観光”に対する熱意が地域の方々の理解を得ることにつながった。また、関係者との連携をいかに進めるか要領が分かった。そして、地域の方々に日常的な生活が観光客にとって魅力的な観光素材となることも確かめられた。

## 5 地域への提言

今回のツアーを通じて、「地域連携と魅力発信を通じた観光産業の活性化」の重要性を認識した。安価を追求するよりも、地域密着のある新たな観光の形が求められる。本研究を踏まえ、以下の提言を行う。

### I. 地域資源の再発見と魅力的なコンテンツの創出

三島市の名水や富士山の眺望、地元食材を活用したグルメなど、地域特有の観光資源を活かした新たな体験型プログラムの開発が求められる。地域住民や学生、観光のプロフェッショナル（観光協会や旅行会社など）と協力し、「ここでしか体験できない」コンテンツを創出することが今後重要だ。

### II. 産官学連携と地域全体の巻き込み

産官学連携が広域観光において不可欠であることを認識した。異業種間のコラボレーションを促進し、地域全体を巻き込んだ観光関連産業の発展を図るべきである。

したがって、地域の観光資源を再発見し、従来にないコンテンツとして提供することにより、新たに地域住民が観光へ参入することが実現する。これ（上記、I と II の包括的な活用）により、三島市内を全域巻き込む広域観光をさらに発展していくことが期待できる。

将来は、日本のトップ観光地「富士/箱根/伊豆（半島）」の広域観光推進のハブ（拠点）となるべく三島の観光が発展することも期待する。

## 6 地域からの評価

【一般社団法人 三島市観光協会 金井貴史様】

今回の日本大学国際関係学部矢嶋ゼミナールの活動は、三島の地域全てを観光素材にするという学生ならではの観点で実施された。これは、地元新聞やテレビでも大きく報道され現在でも続くツーリズム一石投じるものとなった。また、地域住民をはじめ観光関係者にも今後の三島の観光の在り方についても示唆となった。今後も、インバウンド客増加や旅行形態の変化をはじめ日々ニーズの多様化する三島への観光客に対して、若い感性の提案を期待します。